

# 事業報告

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

## I 会社の現況に関する事項

### 1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、設備投資や個人消費をけん引役として緩やかな回復の動きが継続していますが、米中両国による貿易摩擦など世界経済の情勢にやや不透明感が漂っています。

一方、県内経済は、人手不足の深刻化や公共投資の弱さなどが懸念されたものの、生産活動の主力である輸送機械が大幅にプラスとなり、全体的には緩やかな回復の動きとなっています。

当社においては、JR山田線（宮古・釜石間）の移管を受けるため、社員の確保を始め、新車両の製造、新駅の整備、各種関連施設の移管、新たなダイヤの作成、踏切事故防止のための安全教室の実施などを進め、平成31年3月23日に、163kmのリアス線として新たにスタートを切ることができました。

当期は4月から、「いわての学び希望基金」を活用し、岩手県による通学定期の半額補助の実施により定期利用の乗車人員が増加したことに加え、昨年度に引き続き、「お座敷列車北三陸号」、「こたつ列車」、「洋風こたつ列車」などの観光列車の運行のほか、「花見かき列車」、「久慈秋祭りツアー列車」などの地域連携企画による誘客や企業ヘッドマーク及び車両ラッピングなど企業等との連携により、利用者の増加に努めてきました。

関連事業においては、震災学習列車、被災地フロントライン研修等の継続により、災害学習への需要対応を図りました。

また、インバウンド対応としては昨年度に引き続き、台湾からの観光客取り込みを見据え、東北・函館の民鉄・第三セクター13社による「東北・函館ローカル鉄道共同パス」の継続発売を実施しました。

この結果、輸送人員は、リアス線の開通や定期の乗車人員の増加により前年度比106.1%の554,085人となりました。

しかし、鉄道事業収入は、リアス線の開通を見据えた団体客の利用控えやラッピング等の広告収入の減少が響き前年度比98.9%の282,538千円、関連事業収入は、物産部門における駅売店等の売上の減少や旅行業部門における被災地視察の需要減などにより、前年度比81.6%の46,324千円となりました。

経常費用については、山田線移管に向けた社員採用による人件費や広告費、備品購入費が増加するとともに、昨年度に引き続き原油価格の高騰による燃料費の増加などにより、前年度比123.3%の720,190千円となりました。

その結果、経常利益は▲382,788千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は▲14,455千円と前年度と比べて16,118千円の増益、計画と比べて27,475千円の減益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、老朽化した通信ケーブルの更新、AT S地上子の更新、橋梁の改修やマクラギのPC化工事を行い、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害事故の事故防止に取り組み、障害事故0件を継続しています。

【損益の状況】

(単位：千円※税抜)

項目	30年度 実績	29年度 実績	前年度 増減	前年度比	30年度 計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	282,538	285,619	▲3,081	98.9%	295,400	▲12,862	95.6%
関連事業収入	46,324	56,787	▲10,463	81.6%	49,100	▲2,776	94.3%
営業外収益	8,540	9,349	▲809	91.3%	4,500	4,040	189.8%
経常費用	720,190	583,936	136,254	123.3%	717,600	2,590	100.4%
経常利益	▲382,788	▲232,181	▲150,607	—	▲368,600	▲14,188	—
当期純利益	▲14,455	▲30,573	16,118	—	13,020	▲27,475	—

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

平成30年度の乗車人員については、定期外が前年度比99.6%となりましたが、定期は前年度比112.4%となりましたので、全体では前年度比106.1%の、554,085人となりました。

運輸収入についてはリアス線開業や、定期券収入が107.9%、一般個札が101.7%となったことなどにより、前年度比102.4%の262,611千円となりました。

【輸送実績】

(単位：人、千円※税抜)

項目	30年度	29年度	増減	前年度比	22年度
乗車人員	554,085	522,068	32,017	106.1%	851,456
定期	298,561	265,634	32,927	112.4%	469,980
定期外	255,524	256,434	▲910	99.6%	381,476
(南リアス線)	(142,824)	(138,657)	4,167	(103.0%)	(233,706)
(山田線)	(12,779)		12,779		
(北リアス線)	(398,482)	(383,411)	15,071	(103.9%)	(617,750)
運輸収入	262,611	256,576	6,035	102.4%	322,534
定期券	61,388	56,903	4,485	107.9%	92,698
一般個札	116,872	114,908	1,964	101.7%	138,715
観光個札	20,812	19,833	979	104.9%	25,741
一般団体	32,740	33,264	▲524	98.4%	16,062
観光団体	30,799	31,668	▲869	97.3%	49,318

② 運転状況

平成30年度の定期列車については、平成31年3月23日まで、南リアス線では、盛～釜石間で1日20本を運転しました。北リアス線では宮古～久慈間を1日22本、普代～久慈間を1本、田野畑～久慈間を平日に1日2本を運転しました。

3月24日よりリアス線の営業運転を開始し、盛～釜石間で22本、釜石～宮古間を同じく22本、岩手船越～宮古間で1本、宮古～岩泉小本間で2本、宮古～久慈間で24本を運転しました。

**〔運転状況〕 平成 31 年 3 月 23 日まで**

駅間	盛～釜石	普代～久慈	田野畑～久慈	宮古～久慈
列車本数	20 本	1 本	2 本*	22 本

\* 田野畑～久慈間は土休日運休

**〔運転状況〕 平成 31 年 3 月 24 日から**

駅 間	盛～釜石	釜石～宮古	岩手船越～宮古	宮古～岩泉小本	宮古～久慈
列車本数	22 本	22 本	1 本	2 本*	24 本

\* 宮古～岩泉小本間は土休日運休

③ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しました。

なお今年度から、南リアス線で「洋風こたつ列車」を運転しました。

また、ヘッドマーク掲出やラッピング等の実施のほか、スタンプラリーなど他社との連携した企画も積極的に実施しました。

**【主な観光列車】**

お座敷列車北三陸号 北リアス線（4月28日～9月30日）

さんりく北リアス号 北リアス線～JR山田線相互直通運転  
（8月3日～6日・10日～13日）

こたつ列車 北リアス線（12月15日～2月24日）

洋風こたつ列車 南リアス線（12月22日～2月11日）

**【主なイベント列車】**

・北リアス線 かいけつゾロリ列車（夏休み期間）、花見かき列車（4月27日）、さんりくうほほ列車（7月15日）、ベアレンビール列車（8月8日）、久慈秋祭りツアー列車（9月23日）等

・南リアス線 くずまきワイン列車（6月8日）、クリスマス列車（12月16日・23日）、酔仙新酒列車（1月26日）、山田町町民号（11月4日）等

・共通 アサヒスーパードライ号（6月22日・23日）、お絵かき列車（7月～11月）

④ 新企画乗車券の発売等

・三鉄フリー乗車券と宿泊券をセットした「三鉄沿線の旅」を復活

・リアス線開業記念きっぷ（入場券セット）を発売

（1セット3,100円を3,000セット作成し、完売したため、その後追加で1,000セット作成）

⑤ 企業等との連携

・東京地下鉄、IGRいわて銀河鉄道、岩手県北自動車、JRバス東北との5社共同企画でぐるっとスタンプラリーを開催。（6月2日～9月30日）

・企業ヘッドマーク及び車体ラッピングの実施

ヘッドマーク クラブツーリズム（株）、（株）阪急交通社、（株）レンタス等

車体ラッピング イオンリテール（株）

## (2) 関連事業営業概況

### ① 旅行業

着地団体においては、被災地フロントライン研修が被災地の経年変化や震災に対する風化等により減少傾向が顕著であり、取扱いの中心が大型客船寄港時(久慈港・宮古港・釜石港・大船渡港・八戸港)のオプションツアーに移行しています。

また、募集型企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、地域の団体旅行や修学旅行の販売等も継続実施しています。

#### 【主な旅行業の実績】

- ・着地団体：フロントライン研修 7件 111名参加（前年度12件 471名）
- ・教育団体：中学校・高校修学旅行 6校 251名参加（前年度5校 294名）
- ・一般団体：大型客船寄港OPツアー 4件 305名参加（前年度7件 414名）
- ・募集团体：かいけつゾロリ列車企画 17回 694名参加（前年度17回 712名）
- ・震災学習列車：202件 8,717名参加（前年度165件 7756名参加）

### ② 物産事業

#### ア オリジナル商品の開発・販売

- ・イトーヨーカ堂の復興支援企画（東北かけはしプロジェクト）による「三陸鉄道コラボ商品」を発売

「三陸鉄道×すみっコぐらしマグカップ&ボウルセット限定nanaco付き」等、計12品

- ・リアス線開通記念商品の開発

「クロジカせんべい」※さんりく基金の県北沿岸地域新商品・新サービス開発事業による「駅名入りマフラータオル」等、計6品

- ・三鉄ギフト（夏・冬）の販売

夏（6月～8月）[7,916千円]・冬（11月～1月）[7,488千円]

- ・地元企業とのコラボレーションによる三陸鉄道バレンタイン2019企画を実施

久慈市 洋菓子ミリオンベル 「久慈ありすのバレンタインショコラ」

陸前高田市 おかし工房木村屋 「釜石まなのバレンタインショコラ」

#### イ イベント外販

- ・沿線市町村の産業まつり等の地域イベントへの出店
- ・県外イベント（東北鉄道フェスタ、よこすかYYのりものフェスタ等）への出店
- ・県庁・盛岡合同庁舎等での即売会実施[8回実施]※前年度6回

#### ウ ふるさと岩手応援寄附

- ・ふるさと納税制度を活用した三陸鉄道支援のための、岩手県のふるさと岩手応援寄附による、三陸鉄道支援に対する返礼品等の発送

### (3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、平成 30 年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

なお、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

また、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

#### ① 安全対策事業

##### ・鉄道施設総合安全対策事業

北リアス線宮古～田老駅間 P C マクラギ交換工事

北リアス線堀内～野田玉川駅間通信ケーブル更新

北リアス線平井賀川橋りょう改修工事

北リアス線 A T S 地上子更新新設工事

#### ② 保安対策事業

##### ・外部訓練への参加

##### ・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施

##### ・異常時対応の実車訓練を実施（テロ対応）

### (4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、今期においては、次のとおり支援を受けました。

・安全輸送設備等整備事業補助	227,612 千円
・運営費補助（設備維持補助）	161,330 千円
・釜石駅維持管理運営事業	2,000 千円
・山田線経営移管交付金	1,881,866 千円
・鉄道新駅整備事業費補助	521,959 千円

### 3 リアス線開通に向けた主な取組

#### ・気動車(36-700 型) 8 両の新造

#### ・保守用特殊車両の新造

#### ・運行本部、施設本部、宮古駅の移転

#### ・J R 宮古駅の業務委託

#### ・J R 出向社員の受け入れ

#### ・八木沢・宮古短大駅、弘川駅の整備

#### ・組織改正（3 本部体制に移行）※平成 30 年 12 月 1 日付け

#### ・リアス線開通記念列車の運行（釜石～宮古）及び記念式典の開催 ※平成 31 年 3 月 23 日

#### 4 対処すべき課題

平成 26 年 4 月の全線運行再開から 5 年が経過し、地元利用や観光利用が低調に推移しているなか、平成 31 年 3 月のリアス線開通に向けた準備で費用が増加したことなどにより、第 38 期（平成 30 年度）は厳しい経営状況となりました。

さらに、沿線市町村においては、防災集団移転事業などにより駅周辺から高台に集団で移転した地区の発生や、震災前から見られた少子高齢化の進展による沿線人口の減少やモータリゼーションが浸透している状況などから、沿線利用の促進はもとより、域外及び国外からの誘客により、全社を挙げた増収対策や経営改善など、あらゆる努力を行っていく必要があります。

具体的には、平成 31 年 1 月に認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」に則り、鉄道事業の経営改善施策として、「安全・快適な輸送サービスの確保」、「利用促進等による収入の確保」、「一貫運行による経営の改善等」に取り組み、安全性・利便性の向上や投資計画・経費構造の抜本的な見直し、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を進め、住民の利便性やニーズに配慮したダイヤの設定や定期運行、多くの皆様が楽しめるイベントや企画列車の実施など地域の方々に日々愛され、利用される鉄道にしていきます。

また今年度は、6 月に開幕した「三陸防災復興プロジェクト 2019」において当社企画列車や他イベントの移動手段として多数利用いただくとともに、「ラグビーワールドカップ 2019™」においても国内外からの観光客に三陸鉄道の利用促進・物産の販売促進を展開していくなど、これらの機会を生かし、リアス線開通後の利用者増加に大きな弾みをつけていきます。

そうした取組を力強く推進していくことで、引き続き「三陸復興」のシンボルとして、沿岸地域をけん引していきます。

#### 5 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 2,431,155 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道軌道安全輸送等整備事業	227,612 千円
(1) 北リアス線宮古～田老駅間 P C マクラギ交換工事	58,769 千円
(2) 北リアス線平井賀川橋りょう改修工事	10,900 千円
(3) 北リアス線堀内～野田玉川駅間通信ケーブル更新工事	79,925 千円
(4) 北リアス線 A T S 地上子更新新設工事	78,018 千円
○ 山田線経営移管に係る初期投資	1,726,522 千円
(1) 気動車 8 両	1,400,000 千円
(2) 保守用特殊車両	181,678 千円
(3) 資機材倉庫設置	54,200 千円
(4) 保守管理用車	49,692 千円
(5) その他	40,952 千円
○ 新駅整備事業	477,021 千円
(1) 八木沢・宮古短大駅	296,169 千円
(2) 払川駅	180,852 千円

## 6 資金調達の状況

該当する事項はありません。

## 7 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	27年度 (第35期)	28年度 (第36期)	29年度 (第37期)	30年度 (第38期)
営業収益	446,569千円	362,435千円	351,755千円	337,402千円
当期純利益	5,958千円	▲59,725千円	▲30,573千円	▲14,455千円
1株当り当期純利益	198円	▲1,990円	▲1,019円	▲472円
総資産合計	511,679千円	720,146千円	460,389千円	1,887,785千円

## 8 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第1種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第2種旅行業
- (3) 物品販売業

## 9 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町4番地
事業所	・事業本部 宮古市栄町4番地
	・運行本部 宮古市宮町1丁目1-19
	・施設本部 宮古市宮町1丁目1-50
	・旅客営業部 宮古市宮町1丁目1-80
	宮古駅 宮古市宮町1丁目1-80
	・久慈派出所 久慈市川崎町10-20
	・大船渡派出所 大船渡市盛町馬場4-4
	釜石駅 釜石市鈴子町22-5
	盛駅 大船渡市盛町東町裏16

※市町村等への業務委託駅：久慈駅・陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・島越駅・岩泉小本駅  
陸中山田駅・大槌駅・三陸駅・綾里駅・(休業駅：田老駅)

## 10 従業員の状況

区 分	従業員数	平均年齢	平均勤続年数
男 子	76名	45.0才	19年5ヶ月
女 子	3名	30.7才	2年0ヵ月
計	79名	44.5才	18年9ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員22名、パート従業員4名、岩手県から1名、東日本旅客鉄道(株)から出向20名を受入れています。

なお、平成30年5月31日付けで2名、6月30日付けで1名、7月31日付けで2名、10月16日付けで1名、平成31年3月31日付けで2名が退職いたしました。

## 11 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.8% (23,200株) の出資を受けています。

※ 岩手県47.1% (14,400株)、沿線市町村22.2% (6,800株)、沿線外市町村6.5% (2,000株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

## II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000 株
- 2 発行済株式の総数 30,600 株
- 3 当事業年度末の株主 46 名
- 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400 株	47.1%
宮古市	1,350 株	4.4%
(株)岩手銀行	1,200 株	3.9%
大船渡市	1,150 株	3.8%
新日鐵住金(株)	1,000 株	3.3%
東北電力(株)	1,000 株	3.3%
一関市	700 株	2.3%
久慈市	650 株	2.1%
釜石市	650 株	2.1%

## III 会社役員に関する事項

### 1 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増拓也	岩手県知事
取締役副会長	山本正徳	宮古市長
取締役副会長	戸田公明	大船渡市長
取締役副会長	遠藤譲一	久慈市長
取締役副会長	野田武則	釜石市長
代表取締役社長	中村一郎	
取締役	平野公三	大槌町長
取締役	佐藤信逸	山田町長
取締役	中居健一	岩泉町長
取締役	石原弘	田野畑村長
取締役	梶屋伸夫	普代村長
取締役	小田祐士	野田村長
取締役	岡田真一	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
監査役	田口幸雄	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
監査役	石塚恭路	(株)北日本銀行 代表取締役専務

## 2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,040 千円

監査役の報酬はありません。

## IV 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。